

社会に出るための力を身につける通信制高校の仕組み、その実践からの提案  
—内発的動機づけを手がかりに—

**【要旨】**

ソーシャル・イノベーション研究科  
ソーシャル・イノベーション専攻  
2025年3月修了  
清水 由佳

## 【要旨】

本稿は、様々な困難を抱えながら通信制高校に進んだ生徒たちが、その中でいかにして社会に出るための力を育てていくのか、その仕組みについて、祥雲高等学院（以下祥雲）での実践を通して明らかにしたものである。その際に着目しているのが生徒たちのモチベーションであり、特に内側から湧き出る意欲、すなわち内発的動機づけである。

第2章では、通信制高校生徒の現状及び小中学校の不登校の生徒の現状について、国の調査及び現場状況を基に示している。不登校の形成には様々な要因が複雑に絡んでいるが、特に小中学校期の不登校理由の上位が「やる気が出ない」「抑うつ・不安」であり、子どもたちのモチベーションの低下が不登校の原因になっていることが示唆された。

第3章ではその意欲とモチベーションについての先行研究についてまとめている。祥雲は設立当時より、アブラハム・ハロルド・マズローの欲求5段階説を生徒支援のベースにおいている。安心・安全基盤の上に、自分を信じ、相手を信じる気持ちや、将来に向かって進んでいこうとするモチベーションが重なっていくという考え方である。さらにエドワード・L. デシの内発的動機づけに着目し、生徒の内側から湧き出る意欲を育てるための要素を、①自律性＝自分で決められるという実感、②有能感＝自分ではできるという自信、③関係性＝他人と関わり生きること、と整理をした。

第4章では文部科学省が提唱している〈新しい時代の学校教育の姿〉である個別最適な学びの中から、通信制での個別最適な学びがいかにして形成されるか、その5つの要素を整理した。

第5章では祥雲を含めた通信制3校を、4章で整理した5つの要素で比較した。結果、祥雲は、文部科学省が提示している〈新しい時代の学校教育の姿〉に非常に近い形で事業実現できていることが明らかになった。また、それらの要素以外の運営のポイントを〈理念、価値観に基づく運営〉〈法人全体の組織づくり／人材マネジメント〉に分類し、モチベーションを切り口に価値分析を行い、〈祥雲スタイル〉を明らかにした。そのスタイルは、安心・安全の欲求の充足をベースにしたうえで、内発的な動機づけを基軸にして構築された伴走支援スタイル、ならびに、医療職を含んだ多業種がチームで生徒を支援するスタイルである。

第6章では、祥雲スタイルの更なる改善実践を報告し、第7章ではこれらの研究結果を踏まえ、深さの事業として中等部の設立を、広がり事業として公立学校空き教室での第2の祥雲事業の展開を提案した。これら事業の実施が、中学校の不登校問題の改善、具体的には安心・安全の欲求が満たされず、モチベーションが低下する期間を短縮すること、及び、現在の教育現場で限界を感じている支援者に解決のための一つの手法を伝える一助になるのではないかと考える。